

**先物入門**

**スーパースキヤルピング225**

## 先物入門 スーパースキャルピング 225

実践編をお読み頂く前に、まずはスーパースキャルピング 225 で使用するテクニカルの基本知識を学びましょう。

### 日経225の仕組み

#### ◇日経225先物とは

日経225 先物とは、「日経平均株価という株価指数」を売買することで収益を狙う投資対象です。簡単に言えば、日経平均が高くなると思ったら買い、安くなると思ったら売り、利益を得ます。

ニュースで「平均株価」「日経平均」などという言葉は聞いたことがあると思いますが、日経225 先物は代表的な一部上場している会社から225 社選び、その平均株価＝株価指数の上下を狙い、投資をします。一般的な「日経平均株価」とは若干異なりますが、値動きはほぼ同じです。

#### ◇必要資金は？

取引に必要な最低資金(必要証拠金)は、日本証券クリアリング機構が一週間ごとに定めるSPAN によって変動します。これをSPAN 証拠金といいます。

通常、このSPAN 証拠金から各証券会社が定める「掛け目」というものによって異なります。

例えばSPAN 証拠金が10万円だとした場合、掛け目が1.2倍ならば

SPAN 証拠金×1.2 倍=120,000 円 ということになっています。

掛け目倍率が何倍であろうと、証拠金ですので、株価の変動によって得られる利益には影響がなく同じです。

**週一回定められる「SPAN証拠金」によって変動し、さらに証券会社が掛け目を加算する場合がある。**

## ◇資金効率のよいのが日経225先物

少額の資金(保証金)を元に大きな金額の取引ができることが、日経225 先物の最大の特徴といってもいいでしょう。

例えば、日経225 先物ミニの場合は、株価指数が10 円動くと、1000 円の損益がでます。つまり実際の株価指数の変動値よりも100 倍の取引ができるのです。

ラージになると10 円動いて10,000 円です。

(実際には手数料、消費税などがかかるため多少少なくなります)

また差金決済といって、一般株式のように売却有価証券の提供を行わずに反対売買(買って＝エントリー、売る＝決済)なので、効率の良い回転売買が可能です。

更に一般株式のように信用取引がないため、売りも買いもパソコン上でしたら数クリックでできます。売りには条件がついていたりすることはありません。

気楽に売りも買いもできます。

## ◇取引時間は何時まで？

日経225 先物・日経225 ミニ・日経225 オプションは

日中取引時間8：45～15：15 に加えて、

「夜間立会」の16：30～翌日5：30 の時間帯も取引が可能です。

日中は忙しくて取引できない方や、株式市場終了後の国内外のニュースを確認してから翌日の値動きを見越して取引したい方など、日中とは違った投資戦略で活用できます。

**デイセッション 8:45～15:15**

**ナイトセッション 16:30～翌日5:30**

## ◇証券会社選びについて

基本的に好みで選んでいただいても良いのですが、

実際にお金を入れて取引をする証券会社は、デイトレードに限り、証拠金が半分で済む下記の証券会社をおすすめします。

デイトレードに限り証拠金が半分で取引可能な証券会社 (2017年9月時点)

[SBI証券－HYPER先物](#)

[岡三証券－先物アクティブ取引](#)

[松井証券－一日先物取引](#)

[日産証券－アクティブコース](#)

「スーパースキャルピング225」は、翌日に持ち越すこともありません。上述の証券会社では、デイトレードに限り証拠金が半分で済むサービスを行っており、これを利用した場合、資金効率が非常に良くなりますし、手数料も安いです。

それ以外、証券口座はいくつ持っていたても構いません。チャートなどのツールも無料で使えるため、たくさんの口座を開設し、使いやすい証券会社を選ぶと良いでしょう。例えば、<http://kakaku.com/stock/sakimono/> のようなところで吟味して選んでみると良いでしょう。

### ◇市場規模はどのくらい？

日経225 先物にはミニとラージというのがあります。ミニはだいたい6万円から10万円ぐらいの証拠金で10円の株価指数の上下によって1000円の損益が出ますが、ラージの場合はだいたい60万円から100万円ぐらいの証拠金で10円の上下で1万円の損益が出ます。先物の取引高は年々増加傾向で、取引時間も延長されました。例えば日経225 先物ミニでしたら、1日当たり40-70万枚ほど取引されており、十分な流動性があります。

### ◇日経225先物の限月（げんげつ）とは？

限月は、「期限の月」の略称で、取引所の先物取引やオプション取引において、期限が満了となる月（最終決済月）のことをいいます。例えば、12月に期限が満了となるものは「12月限（ぎり）」といいます。また、直近に期限が満了となるものは「期近物（当月）」、それよりも後に期限が満了となるものは「期先物」といいます。日経225 先物では、通常取引は、3月、6月、9月、12月の5限月取引（最長1年3か月）、ミニ取引は各月（年12回）（最長9か月）のように限月が決まっています。ただし、ミニでも通常取引（ラージ）に合わせてください。これはメジャー限月といって、一番出来高も多く、流動性が高いものになっています。また3月の最終期日がすぎて、（これをSQ日といいます）翌日の取引をしたいと思ってもできません。その時は次のメジャー限月、6月限においてトレードするということになります。

### ◇株価指数はなぜ上がったたり下がったりするのか？

ひと言でいえば「非常に複雑な要因が絡み合って値が決まっている」としかいえません。外

部要因といって、為替の変動や、地政学的要因、重要人物の発言などによって上下する場合がありますし、大口と言って、大きな資金力をもつ機関投資家の売買によって動くこともあります。

しかし、間違いなく言えるのは、上がった株価指数は必ず下げますし、下げた株価指数は必ず上げます。

我々は外部要因を気にする必要もなく、大口投資家の動向を知る必要もありません。チャートによって淡々と売買を繰り返すだけです。

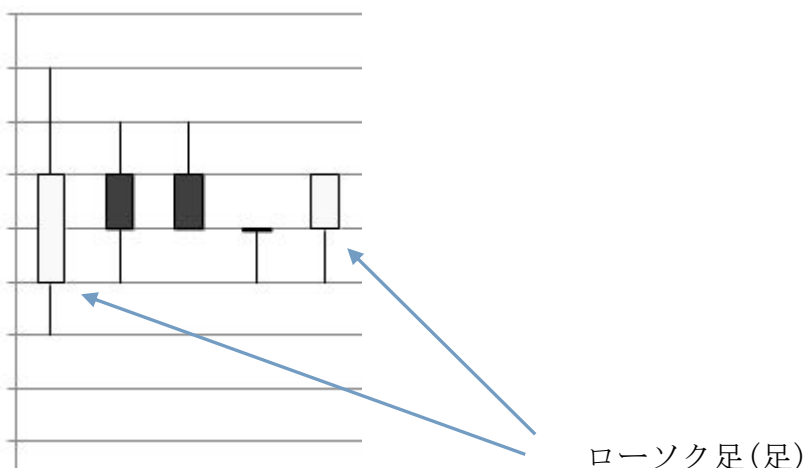
## 用語について

### <スキャルピング>

スキャルピング、あるいはスカルピングと言い、「頭の皮をはぐ」という残酷な意味があります。ここから意味が派生して、少ない利益を皮をはぐように取るトレードスタイルのことをいいます。単にスキャルとも言います。

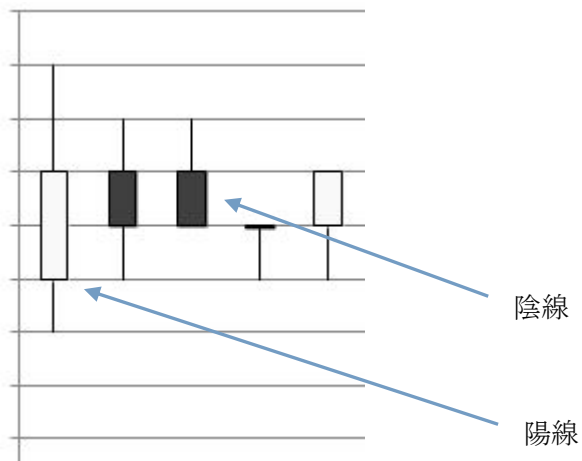
### <足>

株価を一定の時間で区切ってその高値、安値、始値、終値を1本で表示させたものを足と言います。その形状からローソク足とも言います。



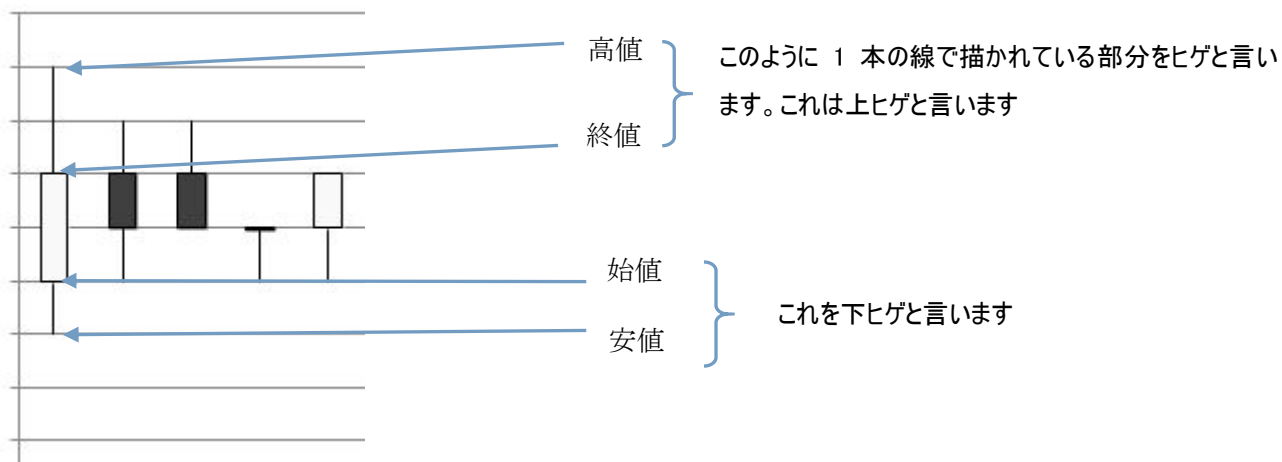
## <陽線・陰線>

始値に対して終値が高く終わるような足を陽線、安く終わるような足を陰線といいます。陽線は白抜き、赤塗りなどで表現され、陰線は黒塗り、青塗りなどで表示され、混同しないようになっています。



## <高値・安値・始値・終値>

ローソク足は高値、安値、始値、終値の4 区分で表示されます。ローソク足を見ればこの4 区分がわかるようになっています。



なお、ヒゲを除いた部分を「実体」と言います。



### <トウバ線・トンボ線・十字線>

トウバ線



始値と終値が同じ価格で、安値が出ず、高値だけつけた足。「塔婆」のような形をしているところから命名されました。

トンボ線



始値と終値が同じ価格で、高値が出ず、安値だけつけた足。「とんぼ」のような形をしているところから命名されました。

十字線



高値と安値が出て、結局始値で終わる足。十文字のような形になります。

### <建玉（たてぎょく、ポジション・玉ともいう）>

先物取引において、「売り買いの約束（＝約定）はしているが、まだ支払い（＝決済）をしていないので、取引は終わっていないという状態のことです。

### <エントリー>

売買注文をして建玉を持つことを言います。

### <エグジット>

建玉を決済することを言います。

### <利確（りかく）・ロスカット>

買い建てしたり、売り建てしたりした建玉（たてぎょく）を決済（反対売買）するのですが、その際に損失を確定させる値で決済することをロスカットと言います。利益を確保することを、利食い、利確と言います。

### <ドテン>

途転（ドテン）は、マーケット全般で使われる用語で、保有するポジションをひっくり返す（逆転させる）ことをいいます。これは、従来の売りや買いの方針を180度変えて、売り方ならば売りポジションを手仕舞って、全く反対に買いポジションを建て、一方で買い方ならば買いポジションを手仕舞って、全く反対に売りポジションを建てることを指します。

### <テクニカル>

相場が今後どうなるかいろいろな計算式によって考察していくものがテクニカルと言います。何百、何千とありますが、

<http://www.kabudream.com/technical/technical1.html> などを参考にして下さい。



## <チャートの時間軸>

1日の値動きを1本のローソクで表し、それを日毎に連続して並べたものが日足チャートです。

■ローソク一つあたりの期間が一日の場合は日足（ひあし）

■一週間の場合は週足（しゅうあし）

■一月の場合は月足（つきあし）

■一年の場合は年足（ねんあし）と呼びます。

■分足チャート。

1日の値動きの中でも、1分毎に「始値」「終値」「高値」「安値」をローソクにすることもできます。そうして作られたチャートを1分足チャートと呼びます。

同様に、3分、5分、10分、15分、20分、30分、1時間と、様々な時間軸でローソク足チャートを作成することが可能です。

## <移動平均線 (Moving Average)>

ローソク足チャートの一定期間の平均値を求め、それをつないだ線となります。

具体的にいえば、5日移動平均線の場合、5本のローソク足の終値を足して、5で割った値をつないで行くこととなります。次のローソク足が確定したときに、新たなローソク足の終値を計算に加える一方、古いローソク足の終値を計算から外します。つまり、そのローソク足を含めた過去5本のローソク足の終値の平均値の値を線で結んだものが移動平均線となります。

なお、移動平均線には終値の平均値を求める「単純移動平均線」と、直近のローソク足の終値の影響をより大きく受ける「加重移動平均線」があります。

また、「指数移動平均線」というものもあります。

この教材では「単純移動平均線」を使用します。以後、「移動平均線」といった場合には「単純移動平均線」を指します。

## <逆指値注文>

通常の指値注文は、売却の場合「ある価格以上になったら売」、買付の場合「ある価格以下になったら買」という注文ですが、逆指値注文とは、売却の場合「ある価格以下になったら売」、買付の場合「ある価格以上になったら買」という注文方法です。

主にロスカットのために使います。

## <呼値（よびね）>

呼び値（呼値）は、売買の注文をする際の値段の刻みの単位です。

225 先物の場合、ラージは 10 円単位、ミニは 5 円単位です。

5 円単位の方がより細かくトレードを区切ることができるので、本トレードではミニを使用します。